

1 題材名 どうぶつさんのおうち

2 題材の目標

- 好きな動物の生活の様子を想像することに関心をもち、動物に合った家をつくろうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 空き箱などの材料を基に、好きな動物に合った家の形や色を思い付く。
(発想や構想の能力)
- 材料を加工したり組み合わせたりして、動物の家を工夫してつくる。(創造的な技能)
- 友人と見せ合いながら、できた作品の面白さや楽しさを感じ取る。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領 図画工作の第1学年及び第2学年におけるA表現(2)ア「感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと」を受けて、身近な材料を使って、好きな動物の生活を想像して表す活動である。導入では、動物たちは、どんな会話をしているのか、何をしている様子なのかを問い掛ける。そして、たくさんの動物の中からつくる動物を決めることができるように、動物園などにいる動物、好きな動物、飼ってみたい動物などから考えられるようにする。そして好きな動物を粘土でつくること、動物が喜ぶような家もつくることを提案する。児童は、自分がつくった好きな動物の気持ちになって豊かな発想をすることができ、更に動物に問い掛けることにより、豊かな言語活動を展開することができると思う。材料を基に、感じたことや想像したことなどを友人と話し合うことで、想像を広げることができるようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童を対象に、図画工作に関する意識調査を実施した。

図画工作に関する意識調査(平成27年*月*日) 第2学年*組 33人

① 図工は好きですか。	・好き 28人 ・どちらかといえば好き 5人 ・どちらかといえばきらい 0人 ・きらい 0人
② 工作をするときに、いろいろな材料を集めることができますか。	・できる 21人 ・だいたいできる 9人 ・あまりできない 3人 ・できない 0人
③ 身近な材料から、つくるものを想像することができますか。	・できる 26人 ・だいたいできる 5人 ・あまりできない 2人 ・できない 0人
④ 友人と話し合っ、つくるものを想像することができますか。	・できる 22人 ・だいたいできる 6人 ・あまりできない 4人 ・できない 1人
⑤ つくるものを想像し、それを絵に表すことができますか。	・できる 23人 ・だいたいできる 4人 ・あまりできない 6人 ・できない 0人
⑥ つくるものを想像し、それを言葉にしたり、友人に話したりすることができますか。	・できる 19人 ・だいたいできる 9人 ・あまりできない 3人 ・できない 2人

意識調査の結果から、本学級の児童は、図工の学習を好み、「身近な材料を基に、発想や構想ができる」と回答する児童が多いことが分かる。また、児童は身近な材料に親しみをもち、その特徴を生かしながら製作することに自信をもっていることが分かる。

しかしながら、材料を基に想像したことを絵や言葉で表現したり、友人に話したりすることに関しては、苦手だと感じている児童の割合が増える。

このことから、本題材では、導入の段階で多様な資料や材料を提示し、十分に発想や構想を練る時間を取りたい。そして想像したことを言語化し、友人とのグループ活動で交流し合うことで、児童が想像を広げ、豊かに発想する力を育てていきたいと考える。

(3) 指導観

本題材では、空き箱などの材料の使い方を考えて動物の家をつくる活動を行う。材料の使い方を工夫するためには、材料そのもののイメージを捉え、言語化し、児童間で共有することが望ましいと考える。ここでは、児童相互の学び合いを重視し、言語活動によって児童の想像を広げ、豊かに発想することができるようにしたい。そのために、ワークシートを工夫し、児童が粘土で製作した動物の写真を貼る欄と、その回りに吹き出しを付けることで、好きな動物の気持ちになつてセリフを記入し、動物の家を想像できるようにする。さらに、話合いが活性化する手立てとして、少人数グループを構成し、色付きの付箋紙を使用して互いに想像したことを書き加えることで、児童の発想や構想の能力をより一層高めたいと考える。

4 学習活動と評価の計画

時	学 習 活 動	学習活動に即した評価規準（評価の観点）
1	<ul style="list-style-type: none"> 動物の気持ちになって教科書の作品を鑑賞する。 好きな動物や飼ってみたい動物を粘土でつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな動物の生活の様子を想像することに関心をもち、動物に合った家をつくろうとしている。（造形への関心・意欲・態度）
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> つくった動物の気持ちを考え、どんな家をつくるか想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き箱などの材料を基に、好きな動物に合った家の形や色などを思い付いている。（発想や構想の能力）
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 材料を工夫して、家づくりをする。 家だけでなく、食べ物や遊び場など動物がほしいと思うものを、想像を広げてつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料を加工したり組み合わせたりして、動物の家を工夫してつくっている。（創造的な技能）
5	<ul style="list-style-type: none"> できた作品に愛着をもち、作品の場面の様子などを友人と話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友人と見せ合いながら、できた作品の面白さや楽しさを感じ取っている。（鑑賞の能力）

5 本時の学習

(1) 目標

言語活動を通して、空き箱などの材料を基に、好きな動物に合った家の形や色などを思い付く。

(2) 準備・資料

粘土で製作した動物、空き箱、身近な材料、ワークシート、付箋紙、振り返りカード

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>動物の気持ちになって、どのような家がほしいか話し合い、想像を広げよう。</p> <p>2 動物が欲しい家や食べ物、遊び場などをワークシートの吹き出しに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none">・草がたくさんあるお家がいいな。・水飲み場が欲しいよ。・木の実や果物が食べたいな。・木のアスレチックで遊びたいな。 <p>3 グループで動物の欲しい家や食べ物、遊び場などについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ゼリーのカップはテーブルになるよ。・ベッドがあるとゆっくり休めるよ。・遊び道具があると楽しいね。 <p>4 想像したことを全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">・窓があるといいと思いました。・屋根がある家にしたいと思いました。 <p>5 本時を振り返り、次時の活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none">・前時の製作活動を振り返り、学習の見通しをもたせる。・身近な材料を用いて動物の家をつくることを確かめる。・粘土で製作した動物や身近な材料を机の上に置いて、実際に見たり触れたりすることで、想像を広げやすくする。・どのような家がほしいか動物に聞いてみよう と提案し、動物に問い掛けながらワークシートに記入できるようにする。・「何があるとうれしいかな。」「何をしてみたいかな。」などと聞き、動物が答えたものを記入できるようにする。・ワークシートに記入できない児童に対しては例文を提示し、助言する。・記入できている児童に対しては、ワークシートに丸を付けて称賛し、自信をもたせる。・3人グループで話し合う順番を決めることを伝え、話し合いが円滑に進むようにする。・友人の意見は青い付箋紙、自分が新たに想像したことは黄緑の付箋紙を貼ることを伝える。 <p>㊦ 空き箱などの材料を基に、好きな動物に合った家の形や色などを思い付いている。 (観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none">・全体場で児童が記入したワークシートを紹介したり、児童の意見を発表させたりすることで、多様な考えを共有できるようにする。・活動を振り返り、達成感を味わわせるとともに次時の製作活動への意欲をもたせる。